

専攻医

市中病院の強みがここにある！
専攻医が語る“実力をつけられる環境”とは

外科専攻医2年目
熊本大学卒業 | 小川 純平

外科科長 | 網木 学



川崎幸病院に入職した理由

小川：初期研修医として川崎幸病院を選んだ時からここで専攻医になりたいと思っていました。最初の2年間で気持ちが変わることなく、ここで力をつけられると感じ、残っています。

院内や外科の雰囲気

小川：当科は穏やかな先生が多く、精神的なストレスなく働けています。日々、治療方針などを細かく相談でき、専攻医の意見も積極的に取り入れていただいています。また院内は外科に限らず若手への指導も活発だと感じます。

働き方・待遇面

小川：オンオフがしっかりしていて、仕事が終われば定時で上がれることも少なくありません。待遇面では、立地が抜群です。病院の寮も新しく安価で、病院や駅から近いので便利です。

川崎幸病院でのやりがいと魅力

小川：手術件数が多いのが一番の魅力です。専攻医1年目で年間180件の手術を術者として経験しました。他の施設と比べても多いと思います。また、毎回手術動画を作成してカンファレンスで振り返り、学びを深めています。



網木：川崎幸病院は救急に力を入れており、幅広い症例を経験することができます。専攻医も診断から手術・術後の管理まで関われるので外科医として必要なスキルをバランスよく身につけるにはとてもいい環境です。

外科専攻医の理想的な病院選びのポイント

小川：初期研修医の頃は執刀件数や、症例の種類、専門性ばかりが気になっていました。ただ専攻医として働き始めてみると、手術中はもちろん、術前後でも不安になる瞬間や、決断できない瞬間がたくさんありました。そんな時にすぐ指導医や他の医療スタッフに相談できるかどうかは、専攻医にとって重要だと思います。

網木：総合力が養える環境かどうかを見極めることが大切だと思います。

専攻医の段階で専門性を高めることももちろん大切ですが、その前に、土台となる「一般的な外科の力」をしっかりと身につけることで将来の診療の幅も広がっていきます。

